

**令和 7 年度からの国際共同利用・共同研究拠点の
新規認定拠点の審査結果(国立大学)**

令和 6 年 10 月 31 日

国際共同利用・ 共同研究拠点名	宇宙地球環境研究拠点
大学等名 (研究施設名)	名古屋大学(宇宙地球環境研究所)
評価コメント	地球・太陽・宇宙を一つのシステムと捉え、地球環境問題の解決と宇宙に広がる人類社会の発展に貢献することをミッションとして、国際水準の共同研究を推進している。国際人材を育成する共同利用・共同研究拠点として、世界中の研究機関と学術交流協定を結び、世界各地の観測点で取得したデータを活用して活発な国際共同研究を展開するとともに、国際的な関連コミュニティの大型研究計画の立案・実施において中心的な役割を担い、関連コミュニティを牽引する活動を行っていることは高く評価でき、国際共同利用・共同研究拠点として認められる。 今後は、宇宙・太陽・地球のシームレスな研究を特長としている中で、宇宙との関連の強化を図るとともに、計画されている大学からの支援を受け、若手研究員を国際公募する国際拠点連携ラボの構築、外国人教員・URA の雇用や国際共同利用・共同研究プログラムの拡充によって、引き続き関連コミュニティに貢献することが期待される。

国際共同利用・ 共同研究拠点名	理論物理学国際研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(基礎物理学研究所)
評価コメント	理論物理学の中核的研究拠点として、すでに多くの外国人研究者や若手研究者を受け入れ、国際共同研究を多数実施し優れた研究成果を挙げている。国際的な理論物理学研究のグローバルハブとして、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、アジア圏で唯一国際滞在型の研究プログラムを常設しており、大学院生を含めた国際的な若手人材育成にも力を入れていることも併せて高く評価でき、国際共同利用・共同研究拠点として認められる。 今後は、国際共同利用・共同研究拠点として引き続き実績を積み重ねるとともに、量子情報と理論物理学の融合に世界に先駆けて取り組むなど、新たな学際領域の創出により海外の同分野の研究機関との差別化を図る等、理論物理学の世界的な発展に貢献することが期待される。